

生活援助従事者研修 シラバス

科目名	研修目標	研修内容
1. 職務の理解	研修に先立ち介護職の仕事について具体的なイメージを持ち研修に実践的に取り組める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護保険サービス・介護保険外サービスの理解 ・ 介護職の仕事内容や働く現場の理解
2. 介護における尊厳の保持・自立支援	介護職が利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援や介護予防等サービスを提供するに当たっての基本視点を理解できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人権と尊厳の保持 ・ ICF・QOLの考え方 ・ ノーマライゼーションの考え方 ・ 虐待防止・身体拘束禁止 ・ 個人の見地を護る制度の概要 ・ 自立支援に向けた支援 ・ 介護予防の考え方
3. 介護の基本	介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気付き、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解できる。 介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護環境の特徴 ・ 介護の専門性 ・ 介護に関わる職種 ・ 職業倫理 ・ 介護における安全の確保 ・ 事故予防・安全対策 ・ 感染予防 ・ 介護職の心身の健康管理
4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	介護保険制度や障がい者総合支援制度を担う一員として知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務についてその概要のポイントを挙げられる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護保険制度創設の背景及び目的、動向 ・ 仕組みの基礎的理解 ・ 制度を支える財源、組織、団体の機能と役割 ・ 医療との連携とリハビリテーション ・ 障がい者福祉制度の理念 ・ 障がい者自立支援制度の仕組みの基礎的理解 ・ 個人の権利を守る制度の概要

<p>5. 介護におけるコミュニケーション技術</p>	<p>高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、最低限取るべき行動を理解できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ・ コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション ・ 利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ・ 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 ・ 記録における情報の共有化 ・ 報告 ・ コミュニケーションを促す環境
<p>6. 老化と認知症の理解</p>	<p>加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解できる。また、介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症ケアの基本を理解している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ・ 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 ・ 高齢者の疾病と生活上の留意点 ・ 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 ・ 認知症ケアの理念 ・ 認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、心因疾患別ケアのポイント、健康管理 ・ 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ・ 認知症の利用者への対応 ・ 家族への支援
<p>7. 障害の理解</p>	<p>障害の概念と ICF、障害者福祉の基本的考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の概念と ICF ・ 障がい者福祉の基本理念 ・ 身体障害 ・ 知的障害 ・ 精神障害（高次機能障害・発達障害含む） ・ その他の心身の機能障害

<p>8. こころとからだのしくみと生活支援技術</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ・ 尊厳を保持し、持てる力を発揮してもらいながらその人の住宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得できる。 	<p>1) 介護の基本的な考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 倫理に基づく介護 ・ 法的根拠に基づく介護
		<p>2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感情と意欲の基礎知識 ・ 自己概念と生きがい ・ 老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因
		<p>3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ・ 骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用 ・ 中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ・ 自律神経と内部器官に関する基礎知識 ・ こころとからだを一体的に捉える ・ 利用者の様子と普段との違いに気づく視点
		<p>4) 生活と家事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活歴 ・ 自立支援 ・ 予防的な対応 ・ 主体性・能動性を引き出す ・ 多様な生活習慣 ・ 価値観
		<p>5) 快適な居住環境整備と介護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 快適な住環境に関する基礎知識 ・ 高齢者・障がい者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援

		<p>方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭内に多い事故 <p>6) 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法 <p>利用者・介護者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法移動と社会参加の留意点と支援</p> <p>7) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ ・ 楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ・ 食事と社会参加の留意点と支援 <p>8) 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 睡眠に関する基礎知識 ・ さまざまな睡眠環境と用具の活用方法 ・ 快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法
		<p>9) 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ ・ 生から死への課程 <p>10) 介護課程の基礎的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護課程の目的・意義・展開 ・ 介護課程とチームアプローチ
<p>9. 実習</p>	<p>実習を通して研修で学んだ内容を施設において経験し、生活援助の技術、心構えを養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護方法や内容、利用者との接し方等を見学させる。 ・ 出来るだけ多くの利用者に自ら話しかけ、コミュニケーションの機会を持たせる。

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 移動・移乗について指示に基づき経験し、補助的業務を経験させる。
10. 振り返り	<p>研修を振り返り、研修を通して学んだことについて再確認し、修了後も継続して学習・研鑽出来るようになる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 根拠に基づく介護や生活援助についての要点（利用者の状態像に応じた介護と介護課程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等） ・ 継続的に学ぶべきこと。
11. リバウンドしない収納術（独自）	<p>介護に必要な収納だけでなく、生活に役立つ収納技術を習得できる</p>	
12. 終活講座（独自）	<p>高齢者が直面する課題であり自身の今後にも役立つ終活について知識を深める</p>	